

平成 21 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

目 次

調査の概要	1
総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	1
教科別調査結果の概要	
国 語	2
社 会	3
数 学	5
理 科	7
英 語	9
* 得点の度数分布グラフ	1 1
* 平均点推移グラフ	1 7
* 正答率調査表	1 9

調査の概要

1 調査の目的

平成21年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育向上のための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

2 実施日、調査教科

平成21年3月5日(木)

国語(55分)	9:30~10:25
社会(45分)	10:40~11:25
数学(45分)	11:40~12:25
英語(45分、うち「リスニング」約12分)	13:30~14:15
理科(45分)	14:30~15:15

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科(5教科)を受検した者全員4,679人(男子2,580人/女子2,099人)を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は486人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たっては、全ての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

総合得点(全教科の合計点)の調査結果概要

1 出題のねらい、配慮事項

中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、応用力をもみることができるよう出題すること。

当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。

単に記憶の検査に偏らないようにし、理解力、思考力、観察力、分析力等を検査することができるように工夫すること。

全体的視野にたって出題し、地域差による影響が生じないようにすること。

特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

2 得点別にみた度数分布

総合得点の平均点は295.0点で、前年度より9.1点低い。最高点は485点、最低点は36点であり、その得点分布は(図1-1 P11)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は296.6点(前年度比-8.2点)、女子は292.9点(前年度比-10.2点)で、男子が女子より3.7点高い。その得点分布は(図1-2 P11)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成17年度から今年度入試まで5年間の全体平均点は(図1-3 P17)のように推移している。各年度ごとの難易度に差があり単純な比較はできないが、高水準を維持している。

教科別調査結果の概要

国 語

1 出題のねらい、配慮事項

学習指導要領の趣旨に基づき、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び[言語事項]を網羅した内容を検査するものとし、併せて、全学年にわたり、全領域から偏りのない出題となるように配慮した。

出題量（前年同様、解答数で30）及び出題内容は、検査時間内で解答できるようにし、設問の表現も、受検生にわかりやすいものにした。

配点については、一領域の比重が大きくなりすぎることがないように配慮した。

2 得点別にみた度数分布

全体の平均点は72.8点で、昨年に比べて7.4点高い。最高点は100点、最低点は7点で、その得点分布は（図2 1P12）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は72.0点、女子は73.7点で、女子が男子より1.7点高い。その得点分布は（図2 2P12）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成17年度からの5年間の全体平均点は、（図2 3P17）のような推移である。平成19年度から学力検査の仕組みが変更になったため、5年間を同一の視点で比較することはできないが、平年並以上の平均点となっている。平均点がそのまま、受検生の国語力そのものの指標ではないが、各設問への取り組みを反映したものと見える。

平成18年度以前には男女の平均点差が5点程あったが、平成19年度以降、差の開きは減少傾向にある。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P19）

㊦ 言語事項（漢字・書写・語彙）

一、二では、生徒の親しみやすさに配慮し、季節感や親近感のある文を設定し、基本的な常用漢字の読みと書取りを出題した。全般的によくできているが、「斉唱」が読めない、「規則」を書けないなど、日常生活の場面における漢字についても、必ずしも確実に身に付いているとは言い難い。

三の書写は、行書の「飛」の筆順を問うものであるが、正答率は44.2%と、指導上の課題を残した。

四の平仮名の成り立ちに関する問題は、正答率96.8%と高く、よくできていた。

㊦ 話すこと・聞くこと

一は、話し合いの中で出された意見が、文脈との整合性があるのかという点について、前後の関係から理解できているかを問う問題であり、二は、話し合いを進める際に司会者の果たすべき役割を問う問題であり、正答率は、それぞれ81.2%、93.6%であった。

実際の話し合いの場面では、発声や声の大きさ、問の取り方、イントネーションなど、音声表現上の指導の工夫も大切である。

三 文学的文章 出典「雑の家」『詞華断章』竹西寛子

一は、文章の展開を踏まえ適切な語句を抜き出す問題で、正答率は27.6%と極端に低く、課題がある。二は、文脈からふさわしい副詞を選択する問題で、正答率は80.6%であった。三は、表現の仕方や文章の特徴を把握し、文脈から筆者の心情を理解する問題であり、正答率は66.0%であった。四は、象徴的に表現された言葉を、文脈に沿って類推できるかを問う内容把握の問題で、正答率は60.7%であった。五は、古語の読み方を問う言語事項の問題である。この正答率は92.5%であり、よくできている。六は、古語の表記を問う、やはり言語事項の問題である。この正答率は83.8%であった。七は、文脈から人物の心情が理解できているかを問う問題で、正答率は74.6%であった。八は、文章の展開を確かめながら、要旨をとらえることができるかを問う内容把握に関する問題で、正答率は84.2%と、よくできていた。

四 説明的文章 出典「バイオマスは地球環境を救えるか」木谷収

出典「バイオ燃料による食糧問題と解決策としての廃棄物の有効利用」倉持秀敏

一は、文章の展開を読み取り、適切な接続語を選択できるかを問う問題で、正答率は80.1%であった。二は、文章の展開に即してとらえることができるかを問う問題で、正答率は、(1)が64.7%、(2)が65.4%であった。三は、文章の展開に沿って内容をとりえ、適切な一文を補う箇所を探す問題だが、正答率は75.6%であった。四は、文章の展開に沿って内容をとりえ、目的に応じて理解できるかを問う問題で、正答率は90.0%と、よくできていた。五は、文章中に与えられた情報を活用する力を問う問題である。正答率は63.5%であった。六は、文章の展開に沿って内容をとりえ、目的に応じて理解できるかを問う問題だが、正答率は53.2%とやや低い。七は、読み取った筆者の意見に対し、必要な情報を引用し、自分の考えを記述する問題で、配点15点のうち、0～5点の分布の合計が20.1%、6～10点が63.5%、11～15点が16.5%であった。

3 全体を通しての考察

基本的な常用漢字の読み書きなどは身に付いているが、書写の漢字の筆順に関する知識や、表現の仕方や文章の特徴を把握し、文脈を理解することなどにおいて不十分な面があり、今後一層の学習の定着が望まれる。

例年のことであるが、選択式の正答率は高く、自ら考えて記述する場合の正答率は低い傾向がある。

これからは、一層の読解力の育成、とりわけ、テキストを目的に応じて的確に読み取り活用したり、さらには自分の考えをもって表現したりする能力の育成に取り組む必要があるように思われる。

社 会

1 出題のねらい、配慮事項

地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野にわたって、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。

写真、図、表、グラフなどの資料を通して、思考したり、判断したり、表現したりする力を問い、また多面的・多角的な資料活用能力を問うようにした。

中学校学習指導要領の趣旨に沿った出題に心がけるとともに、身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

2 得点別にみた度数分布

平均点は57.1点で、前年度より3.3点低かった。最高点は100点、最低点は6点で、前年度と同じであった。得点分布は(図3-1P13)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は58.5点、女子は55.3点で、男子が女子より3.2点高い。その得点分布は(図3-2P13)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成17年度から今年度まで5年間の社会平均点は(図3-3P17)のように推移している。各年度ごとに難易度に差があり単純な比較はできないが、ここ3年間は大きな変動はなく推移している。また、男女別比較でみると男子が女子を上回る傾向が続いている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P19)

1 地理的分野

地図・写真・統計など複数の資料から、日本の工業地域の名前や県名を問うなど、基礎的・基本的事項を問う問題では正答率が高い。また、地形図を読み取るなどの基本的な力も概ね定着している。

しかし、図中に経線をかき入れる問題や、空港の利用状況から都道府県名を答える問題は、予想よりも低い正答率であった。

2 歴史的分野

日本の歴史に関する基礎的・基本的事項の理解は概ね定着している。しかし、時代ごとに大きな流れを把握する力については若干弱いように思われる。また、開国後の貿易の中心地となった港や、満州国の位置など、日頃から地図を使っての学習の成果が試される問題で、正答率が低かった。

3 公民的分野

裁判の種類に関する問題、日本の経済政策に関する問題など、基礎的・基本的事項を問うた問題での正答率が高かった。また、統計資料から正答を導くような知識の活用力を問う問題の正答率も概ね高かった。半面、国民の権利や日本の社会保障制度の分類に関する問題で、予想をやや下回る正答率であった。

4 三分野総合

グラフから山梨県の観光の特色を読み取る問題、都道府県別のデータから、それが何を示すものであるかを選ぶ問題の正答率は高く、資料を読み取る基礎的な力は身に付いている。一方、複数の事象を比較・関連付けして「鎌倉」を導き出したり、ある事象の背景となる政策の名前を答える問題では、予想よりも低い正答率であった。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な部分に関する知識や理解、思考力・判断力・表現力は身に付いていることがうかがえる。また、現代的な課題に対する関心・意欲・態度が高いことも感じられる。

しかし、地理的分野、歴史的分野、公民的分野のいずれにおいても、複数の資料から答えを導き出したり、それぞれの社会的事象の背景を考えたりする資料活用の技能など、一步踏み込んだ問題に対してきちんと正答できるかどうかで得点に違いが生じたように思われる。

日頃の学習においては、年表や地図などを十分に活用し、単に用語の意味だけでなく、その社会的背景や歴史的背景をも意識するなど、個々の社会的事象を時間的・空間的にとらえる姿勢が一層求められる。

数 学

1 出題のねらい，配慮事項

数と式，図形，数量関係の各領域にわたって，基礎的な概念・原理・法則の理解や数学的な表現・処理の能力の把握に重点を置きながら，事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう，次の点に配慮して出題した。

身近な課題に対して，主体的に解決する場面を設けた。

知識や技能を数学的な見方や考え方により活用し，解決する場면을重視した。

複数の領域にわたって総合的に考える場面を設けた。

思考過程や問題解決の手順などが検査できるように，記述式の解答形式を取り入れた。

2 得点別に見た人数分布

平均点は52.0で，昨年より2.0点低い。最高点は100点，最低点は0点で，その得点分布は（図4 - 1 P14）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると，男子53.3点，女子50.3点で男子が女子より3.0点高い。その得点分布は（図4 - 2 P14）に示すとおりであり，61点以上において，男子の構成比が女子のそれを上回っている。

3 平均点の推移

平成17年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は（図4 - 3 P18）のように推移している。数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題を多く取り入れてきたが，全体では40点台を推移してきたが，昨年，本年ともに50点を超えた。また，近年男女間の平均点の差が開く傾向が見られる。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P20）

① 「数と式の四則」（基本）基礎的・基本的な数式の処理ができるか。

全体的には高い正答率であった。6問中5問が80%を超え，そのうち2問は90%を上回った。最も正答率の低いものは，正負の数を含む分数の計算であったが正答率は78.9%であり（想定は90%），基本的な計算処理については，ほぼ十分な定着がうかがえる。

② 「基礎的事項」（基本）基礎的な知識に基づく表現・処理ができるか。

5問中80%を超えたのは確率のみであった。文字式の意味，反比例が70%を超えたが，工夫しての平方根の計算は49.1%で，工夫せず直接計算し間違えたと考えられる。2乗に比例する関数は59.8%で，誤答例で多いのはエの立方体の1辺 x cm，体積 y cm³を選んでいる。

2，4のように解法や取りかかり口が複数存在する問題が，想定正解率を大幅に下回っている。

③ 「連立方程式」（標準）身近な事象を方程式に表現したり，方程式から意味を読み取ったりすることができるか。また，連立方程式の解法による処理過程を記述し，解を求めることができるか。

1の数量関係を方程式に表現することができるに関しては43.8%，2の方程式が表す数量関係を読み取ることにに関しては52.9%の正答率であった。3の与えられた連立方程式を解くことに関しては60.5%で，「解くこと」はできるが「表す」ことが苦手である。

2(3)に関しては，(2)の方程式が解けているにもかかわらず(3)が正解しないというのは，数量関係をしっかり押さえられていないと考えられる。

- 4 「平面図形」(標準・応用)身近な事象を、図形についての知識や技能を用いて考察し、的確に表現・処理することができるか。また、思考過程を表現することができるか。

全体に厳しい正答率であった。1(1)の作図に関しては頂点となる点の位置が図示できなかった。また、辺ABを辺DCに重なるように折るといった操作が、実際の作図に結びつけられなかったのではないかと考えられる。

1(2)の正三角形の高さを求め、面積を求める問題に関する正解率33.7%は想定外であった。

2(1)の相似の証明は、単純な2角相似がいえるのではなく、角度の和を考えての証明なので、慣れていない受験生には非常に厳しいものであった。

2(2)はEBの長さが1辺からAEの長さを除いたものであると認識できていないのではないかと考えられる。また、方程式がたてられて、解けなかったとは考えにくく、誘導に従い三平方の定理を使うことに気づけなかったと考えられる。

- 5 「関数」(標準)関数のグラフについて、基礎的な事項を求めたり、図形の性質と総合して考察することができるか。

1の「傾き」が67.8%であり、2の「変化の割合」が51.9%、3の「直線の方程式」が57.2%の正答率であることを考え合わせると、誤答の多くは座標が求められていないと考えられる。

4は三角形の面積をどう捉えるかだが、この問題も想定は「等積変形」「共通底辺」「高さ」であるが、「等積変形」に気づいたのは少数であろう。また、様々な考え方ができる問題であったため、上手な分割に気づけずに行き詰まる。正答率は20.4%であった。

- 6 「空間図形」(標準・応用)空間図形を、基礎的な知識や技能を活用して、多面的に観察・考察し、的確に処理することができるか。

全ての問題で想定を下回る正答率であった。1の対角線は頻出問題といってよい標準的な問題である。

3年生の非常に大切な分野である三平方の定理に習熟していないと考えられる。2は5.7%の正答率で、底辺・高さ・面積の関係を、どこを底辺と見るかで立式できることに気づけなかったのではないか。

3(1)の表面積は本年最も正答率が低い問題となった。3(2)正解者の中でも、丁寧に体積を計算したものが多かったと考えられる。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、ほぼ十分な定着がうかがえる。しかし、数学的な見方や考え方が要求される設問や複数の領域の内容を総合して扱う設問での正答率が低い傾向がうかがえる。身近な場面や数学的な事象に、基礎的・基本的な知識や技能を積極的に活用することにより、数学的なものの見方や考え方を磨き、創造的な思考力を身に付けることが求められる。また、多様なアプローチができる問題に、様々な角度から取り組む経験や、粘り強く考えること、自らの考えを言葉で表現したり、式・図形などを用いて数学的に表現したり説明したりすることを習慣化することが必要である。

理 科

1 出題のねらい、配慮事項

学習指導要領の趣旨に基づき、「自然に対する関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う」に留意した。また、理科への興味・関心、思考力・判断力、表現力等が見られるように配慮した。

全学年にわたり、第1分野、第2分野の全領域から偏りのないよう、学力が検査できるようにした。

観察、実験を重視し、自然の事物や現象を理解するための基礎的・基本的事項についての学力が検査できるように配慮した。

思考過程や問題解決の手順など論理的な思考力が検査できるようにした。

日常的な自然現象に関心をもち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるように配慮した。

身近な材料を使い学習内容を確認することで、理科の有用性を感じることができるよう配慮した。

2 得点別に見た度数分布

平均点は、49.9点で前年より20.2点低い。最高点は97点、最低点は3点で、その得点分布は(図5-1P15)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は51.2点、女子は48.4点で、女子が男子より2.8点低い。男女別の得点分布は(図5-2P15)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成17年度から今年度までの5年間の全体平均は(図5-3P18)のように推移している。平成21年度の平均点が低下したが、これは解答の根拠や説明を求める論述形式や、完全解答を増やしたことで、理解が不十分だと得点につながりにくくなったためだと考えられる。

また、男女別比較でみると、毎年女子が男子を下回っている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P20)

① 「蒸留」「物質の状態変化」に関する問題

「蒸留」の基本的な操作とその意味を理解しているか、さらに蒸留によって得られた液体を、それらの性質の違いから判定することができるかを確認した。また、液体が気体に状態変化したときの、体積、質量、密度の変化についても確認した。論述力に課題がみられた。

② 「顕微鏡の使い方」「細胞分裂」に関する問題

タマネギの根の細胞の観察をとおして、顕微鏡の使い方とプレパラートの作成方法に関する知識を確認した。さらに観察結果をもとに、根の成長のしくみを細胞分裂や細胞の成長と関連づけて考えることができるか、減数分裂との違いがわかるかも確認した。細胞分裂と減数分裂の違いについての理解は、やや不十分であった。

③ 「地層」に関する問題

地層をつくる主な堆積岩の種類を区別する方法の一つが、粒の大きさであることや、火山灰をつくる造岩鉱物の基本的な特徴、また、堆積岩の種類と地層に含まれる化石から、地層ができた場所や時代の推定やその成因について理解しているかを確認した。

造岩鉱物の基本的な特徴については、やや理解が不十分であった。

4 「力」「圧力」に関する問題

スポンジを題材に、おもりにはたらく力のつり合いからの作図、圧力の計算ができるかを確認した。圧力の概念から、グラフの活用能力も確認した。計算とグラフの活用に関しては、課題がみられた。

5 「血液の循環」「養分の消化・吸収」「細胞の呼吸」に関する問題

ヒトの血液の循環や、小腸でのリンパ管や肝臓から分泌される胆汁のはたらきが理解できているか、また、赤血球のはたらきや、細胞の呼吸について理解できているかを確認した。比較的高い定着がみられたが、論述に課題がみられた。

6 「物質の化合」「物質の燃焼」に関する問題

化学の基本として、酸化反応の一つである燃焼や、水素の性質・用途について正しく理解しているか、また、鉄と硫黄の化合について、化学反応式で正しく表すことができ、化学変化の結果を、科学的根拠に基づき正しく推論することができるかを確認した。化学反応式を活用して結果を予想することに課題が見られた。

7 「地球と宇宙」に関する問題

公転軌道上の地球の位置と太陽との位置関係から、地球の四季の位置を特定できると共に、方位と見える星座が特定できるかを確認した。また、南中高度について理解し、透明半球上に、ある条件の日の太陽の動きを表す方法や、夏の気温が高い理由を、観察結果に基づいて考察し、表現できるかを確認した。論述力に課題がみられた。

8 「回路」「電流とそのはたらき」に関する問題

回路を流れる電流のグラフから、抵抗のつなぎ方や、各場合の消費電力等の情報を読み取ることができるか、また、電流が磁界から受ける力を理解し、モーターの基本的原理を説明することができるかを確認した。最後の問いでは、知識を整理して解答を組み立てることを苦手としている傾向がみられた。

5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則して、基本的な学力を、思考力や表現力が測れる形式を多く取り入れて出題した。例年通り、短答式の問題では正答率は高く、学習の成果が見られた。一方で、その根拠を問われるとうまく表現できなかつたり、思考過程に曖昧な部分が残っていることも示唆する結果であった。また、グラフや化学反応式を活用して正答を導く問題では正答率が低く、活用能力に関しては課題が残った。科学的な知識を活用して思考する力や、その過程を表現する力の育成が望まれる。

英 語

1 出題のねらい、配慮事項

中学校学習指導要領に示されている外国語の目標および内容に即して、基礎的・基本的な事項の理解度を評価できるように配慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって出題し、総合的な英語の学力が検査できるようにした。

学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力を重視していることから、リスニングテストに言語の使用場面や発話の意図に関わる問題を新しく入れ、リスニングテストの比重を30%とした。

「読むこと」については、使用語数を増やすことで長文化を図り、生徒の英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにした。また、与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる英作文や、読解した内容を基に自分の考えを書かせ、自己表現を促す問題を取り入れることによって、実践的コミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点にあたっては、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

2 得点別に見た度数分布

平均点は63.2点で、前年より9.1点高い。最高点は100点、最低点は8点で、その分布は(図6-1P16)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は61.5点、女子は65.3点で、男子が女子より3.8点低い。男女別の得点分布は(図6-2P16)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成17年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3P18)のように推移している。

今年度平均点が上がった理由としては、全体的に昨年度の出題傾向を踏襲したこと、大問4及び5の英文については、語数は昨年並みだったものの、内容が受験生にとって身近な題材であり、設問も基本的な文法知識や慣用表現を問うものが多かったこと、大問5の自由英作文の英文数を減らしたこと、などが考えられる。

また、男女別比較でみると、昨年同様女子が男子を上回っている。今年度においては、その差は3.8点と、昨年度(2.0点)に比べて、差が広がっている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P21)

① 「聞くこと」に係る問題

英文を聞き取り、その内容に係る絵を選ぶ問題。日常生活でよく目にする物事に関する英語の説明を聞き、それが何の説明であるのかを聞き取る問題である。音声とイメージを直接結びつけることにより、英文を聞き取る基礎的能力を検査できるようにした。

正答率は全4問平均で86.5%と昨年度(76.5%)を上回っており、基本的な聞き取る能力は良好といえる。

② 「聞くこと」「話すこと」に係る問題

英文を聞き取って、その内容に関する質問の答えを、放送される選択肢から選ぶ問題。基本的な日常会話表現を中心に、英語で表現するための能力を評価できるようにした。

平均正答率は、70.3%である。日常的に使われる慣用表現はほぼ定着していると考えられる。

③ 「聞くこと」「話すこと」に係る問題

様々な場面でのコミュニケーション能力を検査したり、言語の使用場面や発話の意図を理解できるかを評価するための短い会話を聞いて問いに対する答えを選ぶ問題。

7問の平均正答率は69.1%である。3の正答率が50%と他と比較して低かったのは、現在完了の用法を理解した上で、聞こえてくる数字から経験年数を計算するという要素が加わっていたためと思われる。

4 「読むこと」「書くこと」に係る問題

日本で行われた国際交流集会で知り合った日本の中学生と韓国の中学生が、メールを交換し、それぞれの将来の夢について伝え合うという状況を設定した。A - B - Aの3つのメールのやりとりを通して、相手のメールを受け、それに応答している内容を理解させることを趣旨とした。二人がそれぞれの夢の実現のために、英語学習に取り組んでいるという点を読み取ることが読解のポイントとなる。語数は昨年並みとした。

英語を運用する上で必要な基礎的言語材料についての知識や、文脈を把握する能力、英文を要約する能力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力を評価できるようにした。

設問4の与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる問題は、正答率が44%だった。また、零点の者が28%いた。学習時間を尋ねる疑問文を書かせる問題であるが、問題文中の表現を活用できれば、表現することは容易な英文である。基本的な英文を書く力に課題を残す。

設問5も設問4同様に英文を書かせる問題であるが、正答率は38%とさらに低い。主語と述語動詞の関係、不定詞の形容詞的用法を使う点等がポイントになるが、基本的な英文であり、零点の者が44%いることからみても、英語を使って表現する力に課題がある。

5 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中学生の由実が英語のスピーチコンテストで2種類のコミュニケーションについて発表したという場面を設定した。相手と顔を合わせて行う"face-to-face communication"に対し、携帯電話やインターネットを利用したe-mail等による"indirect communication"の利点や問題点を挙げた上で、由実が自らの経験を通して"face-to-face communication"の大切さをメッセージとして伝えるという内容である。質問の答えを選択させたり、段落毎に内容をつかませたり、内容をまとめた英文を完成させたりすることで、様々な観点から英文を理解する能力を評価できるようにした。また、スピーチの最後にある、「あなたは2つのコミュニケーションのどちらがより好きですか。」という趣旨の問いに対する答えを1つの英文で、その理由を2つの英文で書かせることによって、コミュニケーションが成立するように自分の考えを伝える表現力を評価できるようにした。この設問では、コミュニケーションを妨げない綴りのミスなどは減点しないこととした。

設問5は要約問題であるがBとCの正答率がそれぞれ26%、33%と低くなっている。答えはそれぞれproblems, understandであるが、単語そのものは使用頻度が低いものではないので、内容を的確に理解する力が求められる。

設問6はスピーチの中にある問いに対する答えとその理由を英語で書くものであるが、正答率は47%と昨年(22%)と比較する大幅に高まった。しかしながら、零点の者が25%、また理由を表す英文については、無答の者が29%いたことから考えると、自分の考えを伝えるということをより意識しながら、英語を書く練習をする必要があると思われる。

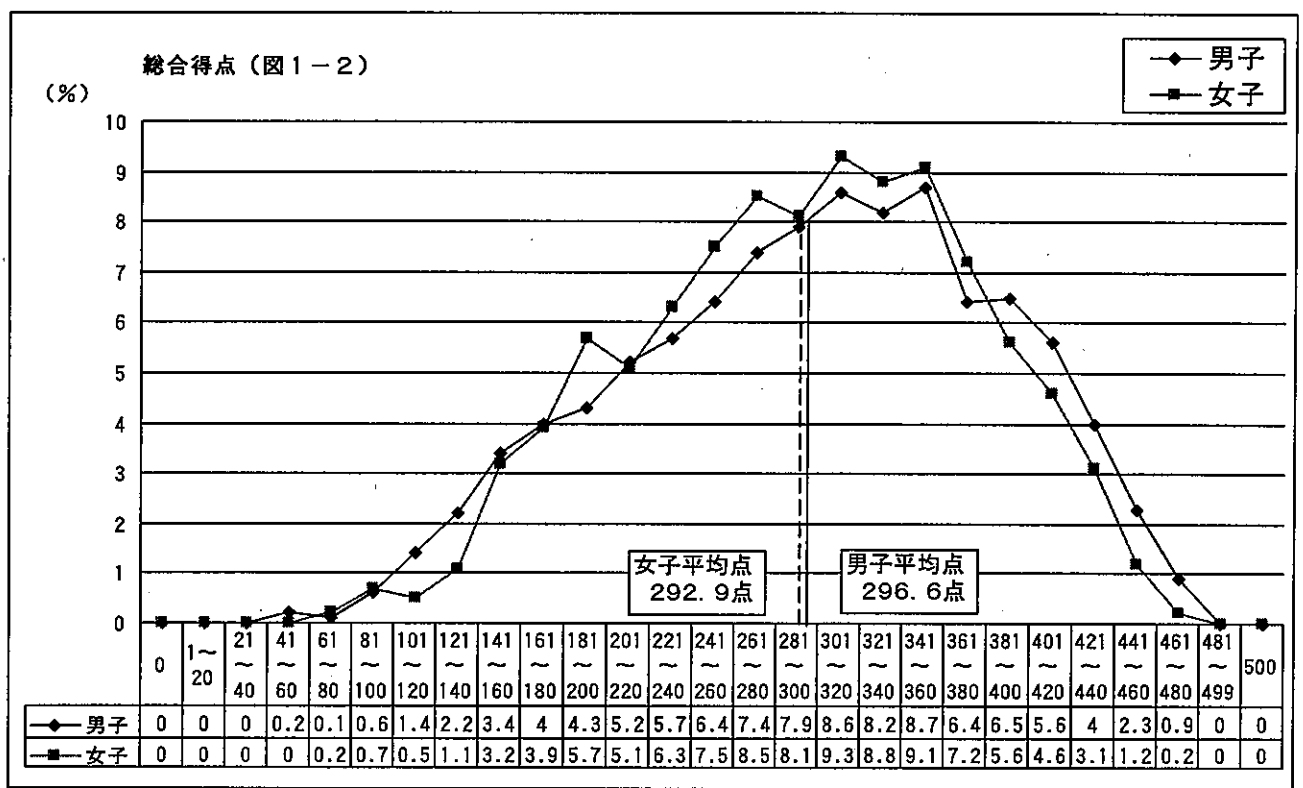
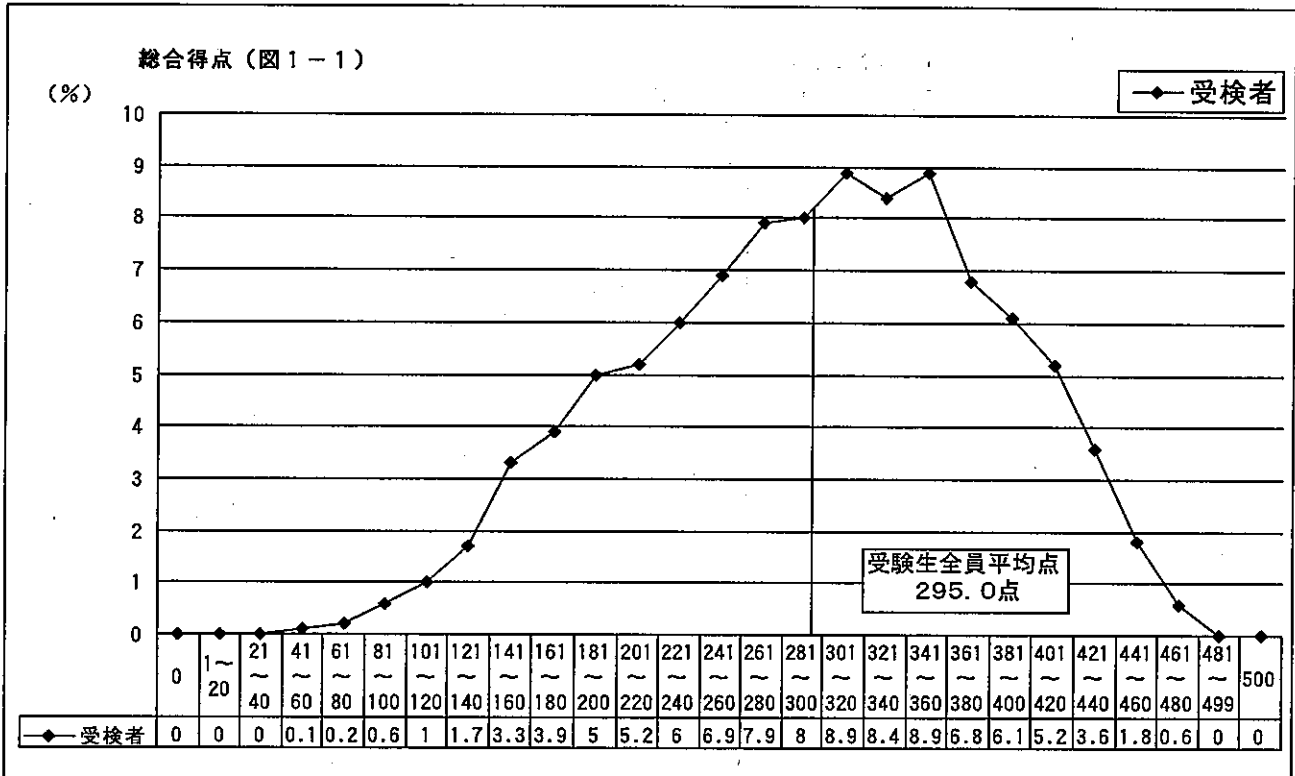
5 全体を通しての考察

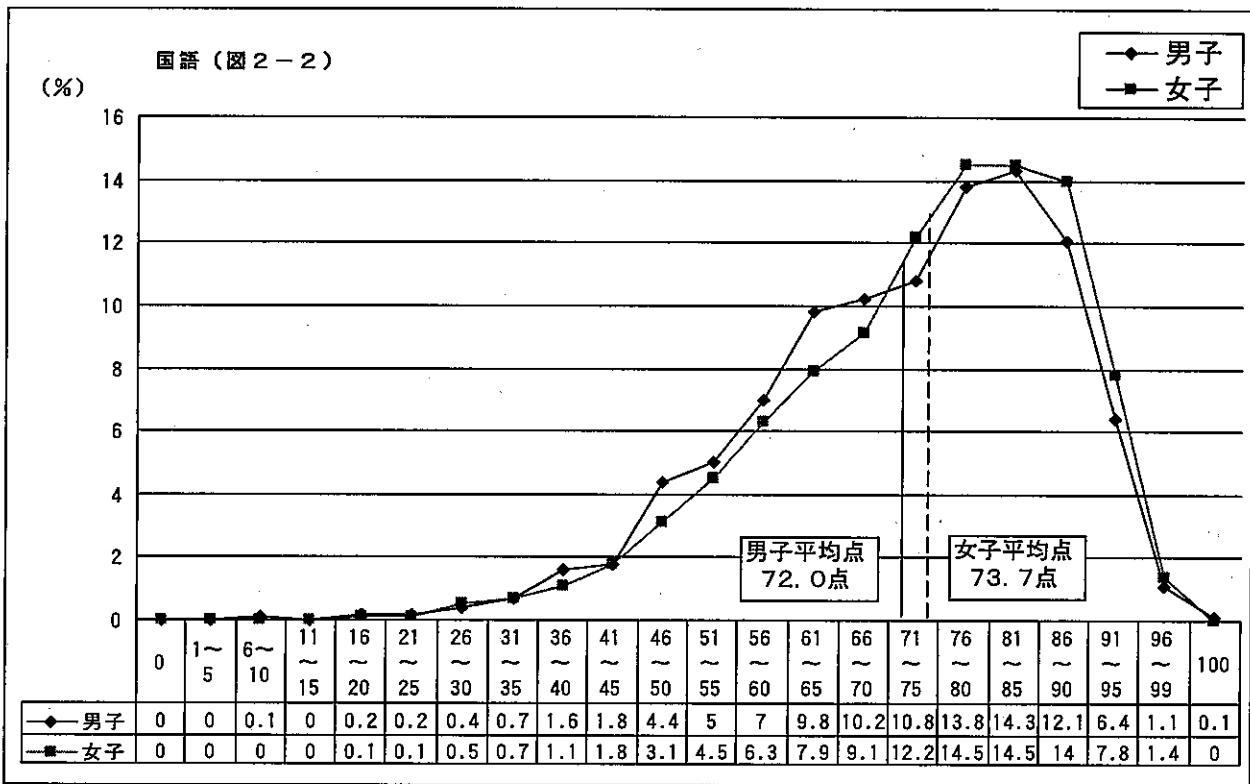
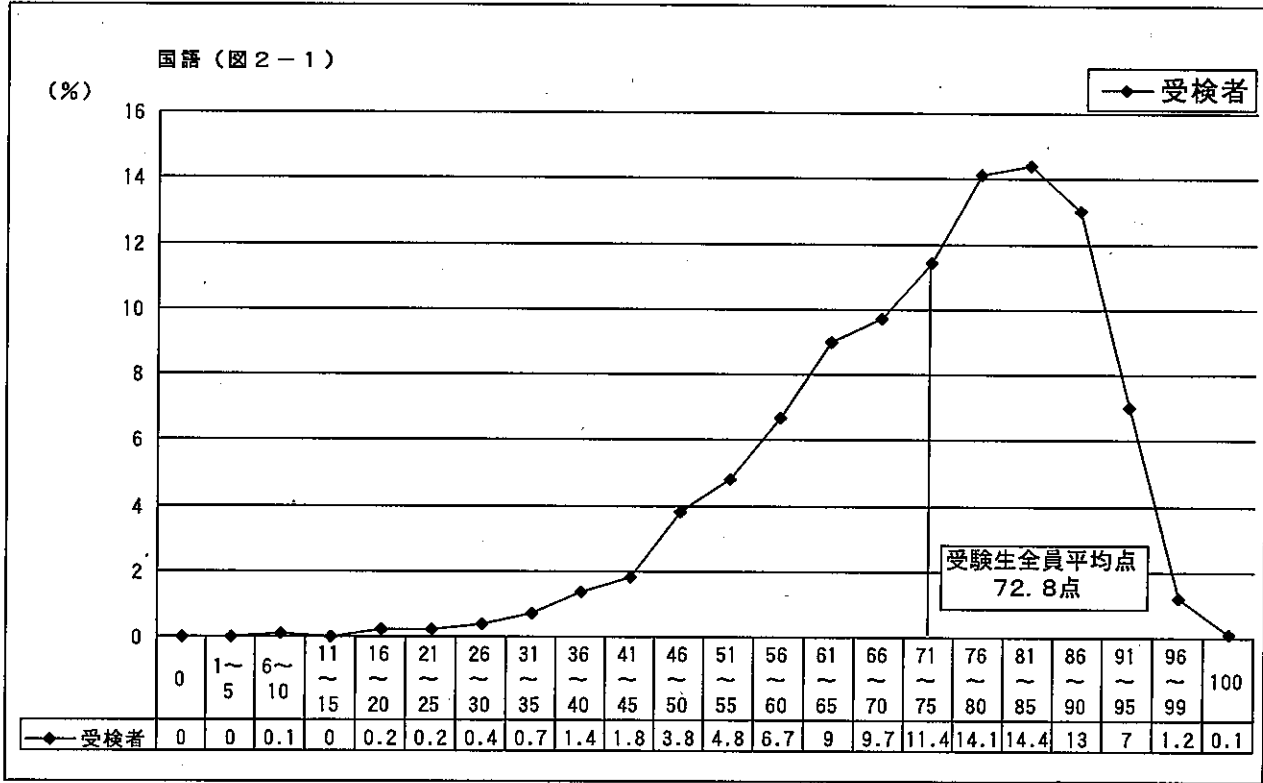
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、知識・理解に偏ることなく、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

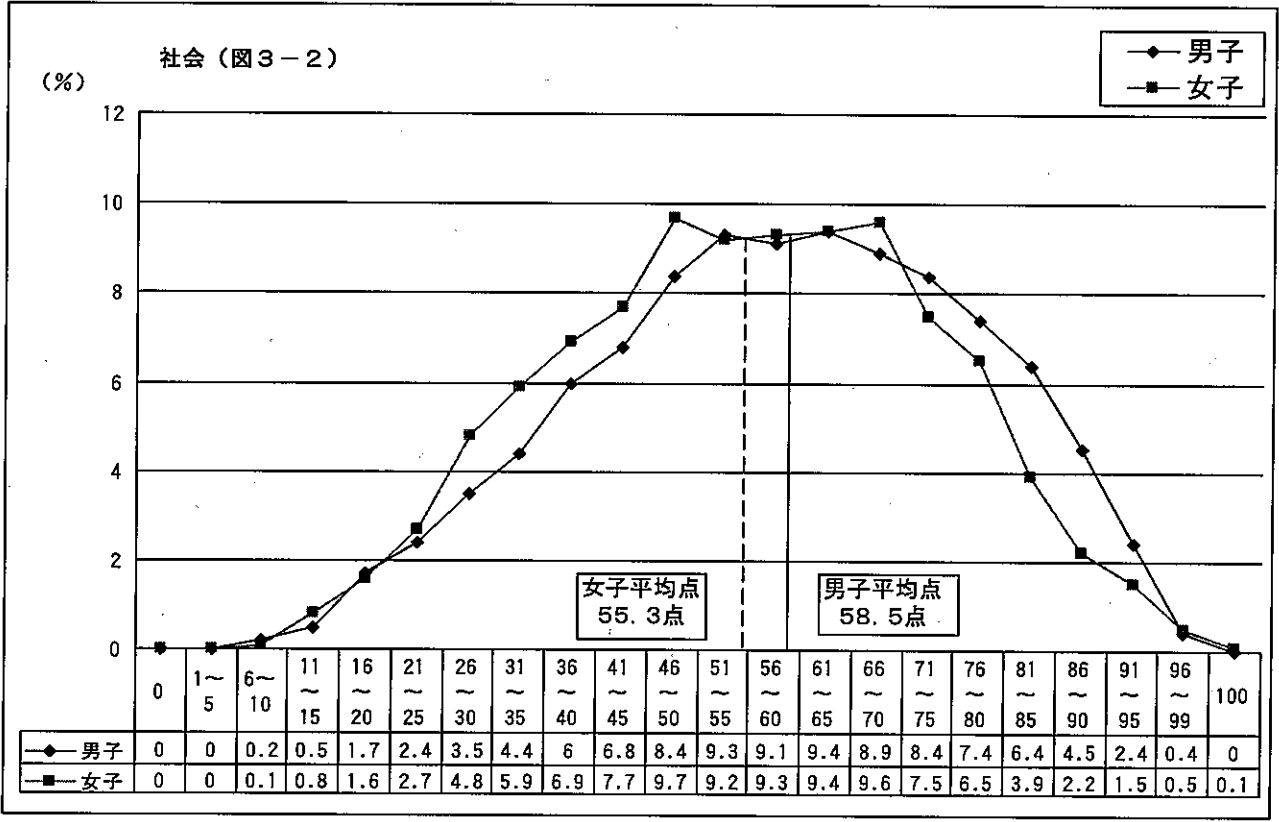
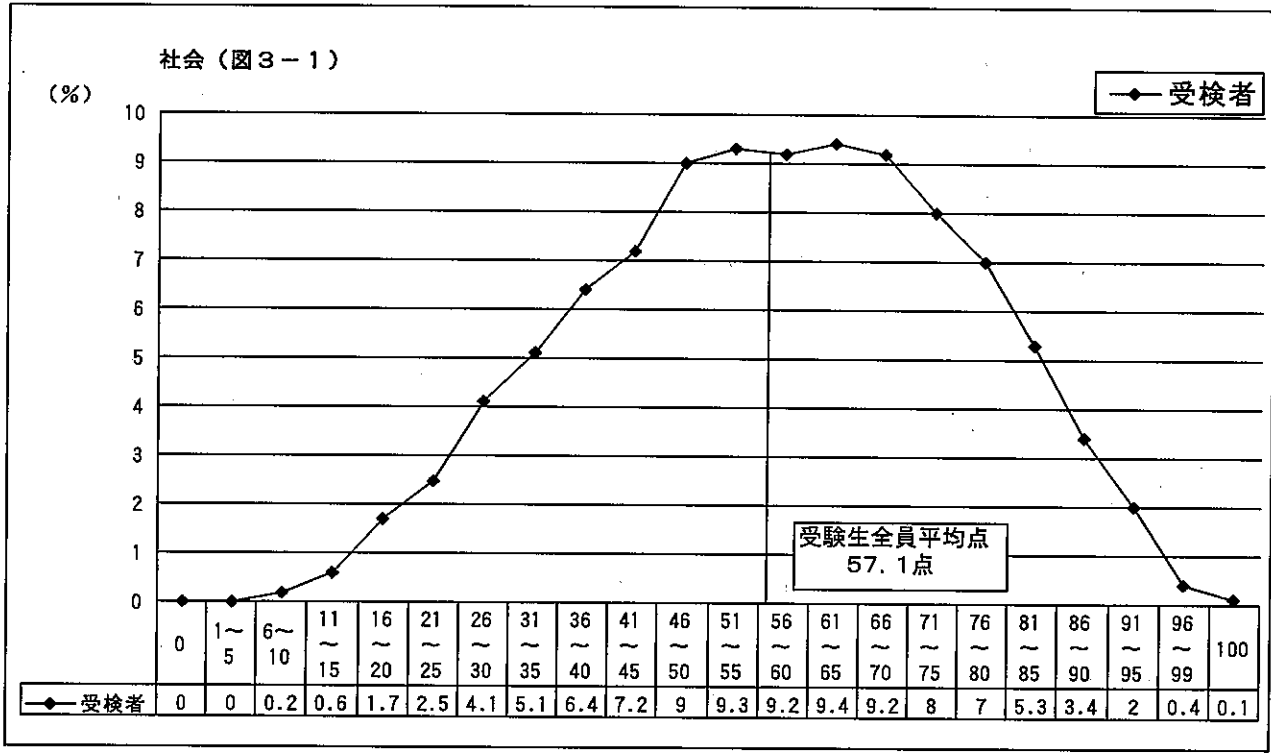
「聞くこと」については、基本的な能力は概ね良好と言える。

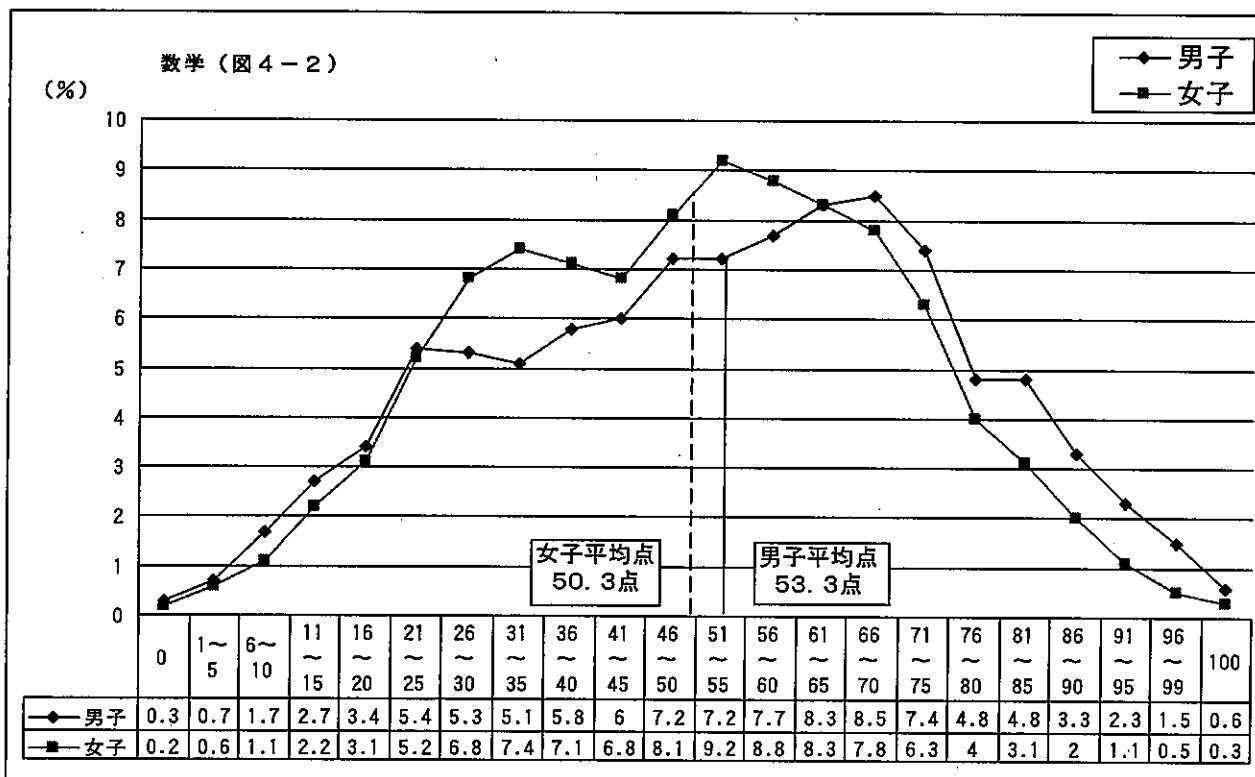
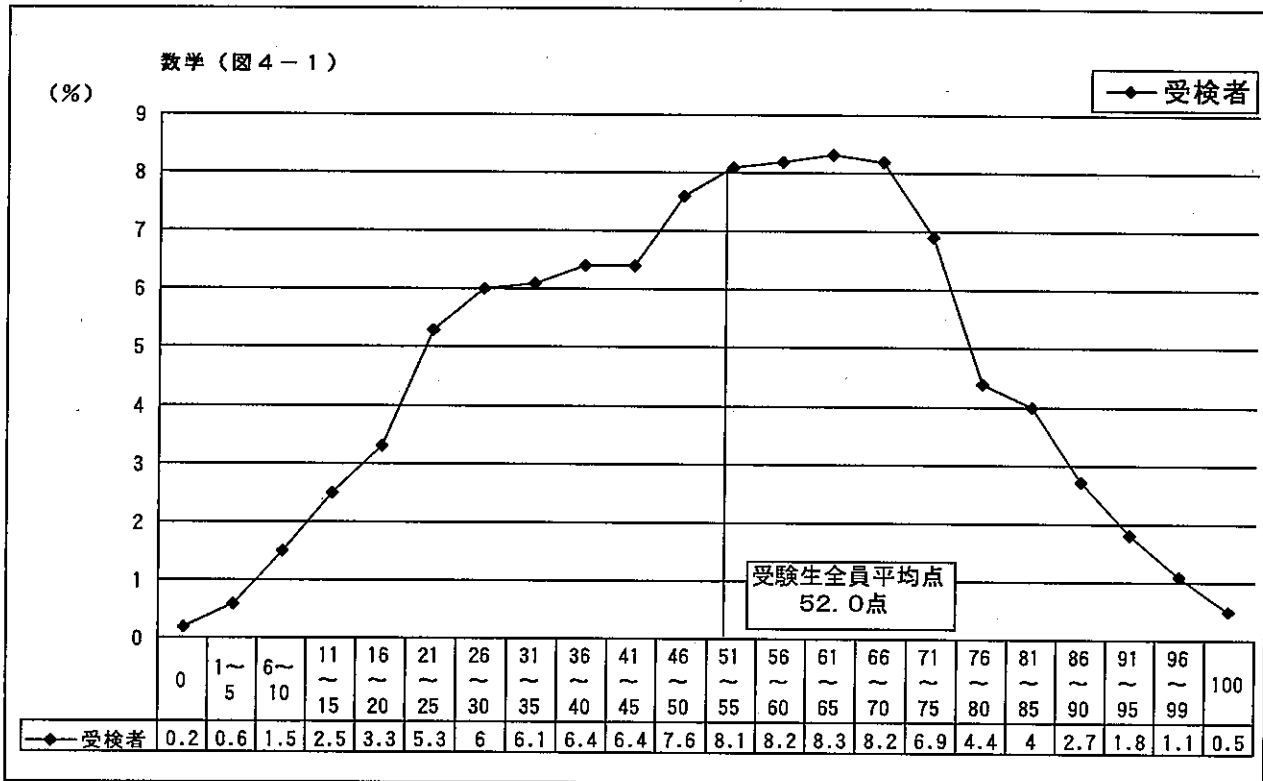
「読むこと」については、英文を読んで内容を理解できるかどうかを、さまざまな観点から多様な出題により評価できるようにした。全般的には概ね良好な結果であった。内容を理解した上で、要約する力には課題が残る。

「書くこと」については、与えられた英文を理解した上で、その内容やテーマに対して自分の考えや意見をまとまりのある英語で表現できるような英語力の育成が求められる。同時に学習した文法事項を使って、正確に英語で表現する力の育成も課題となる。





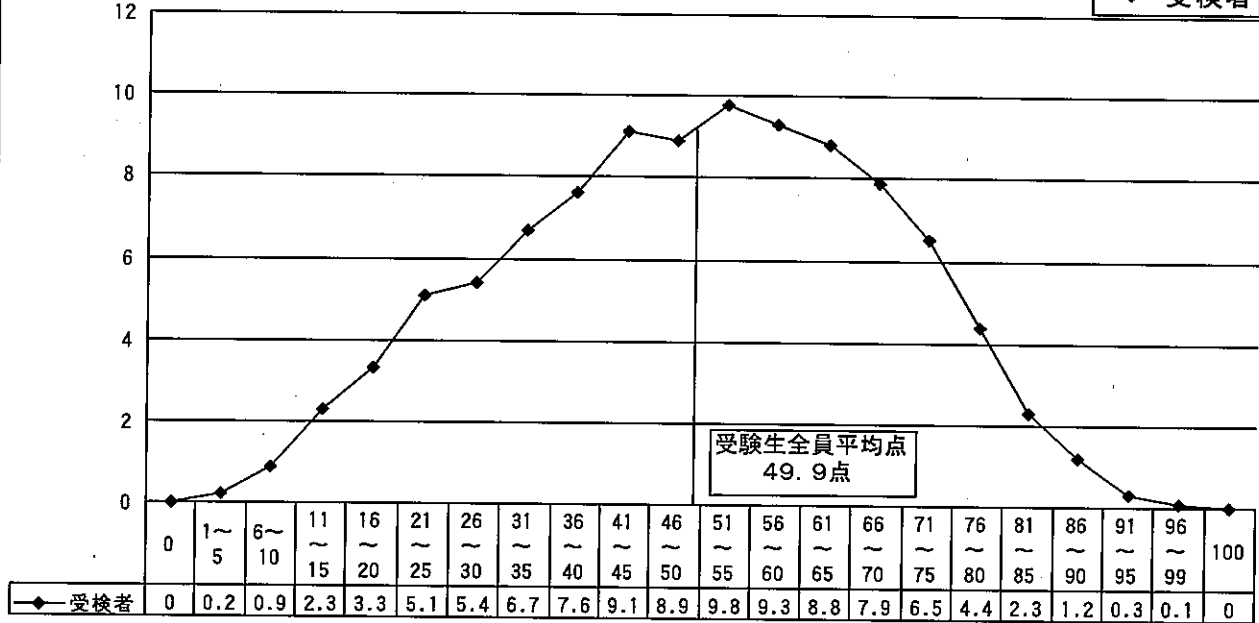




理科 (図5-1)

(%)

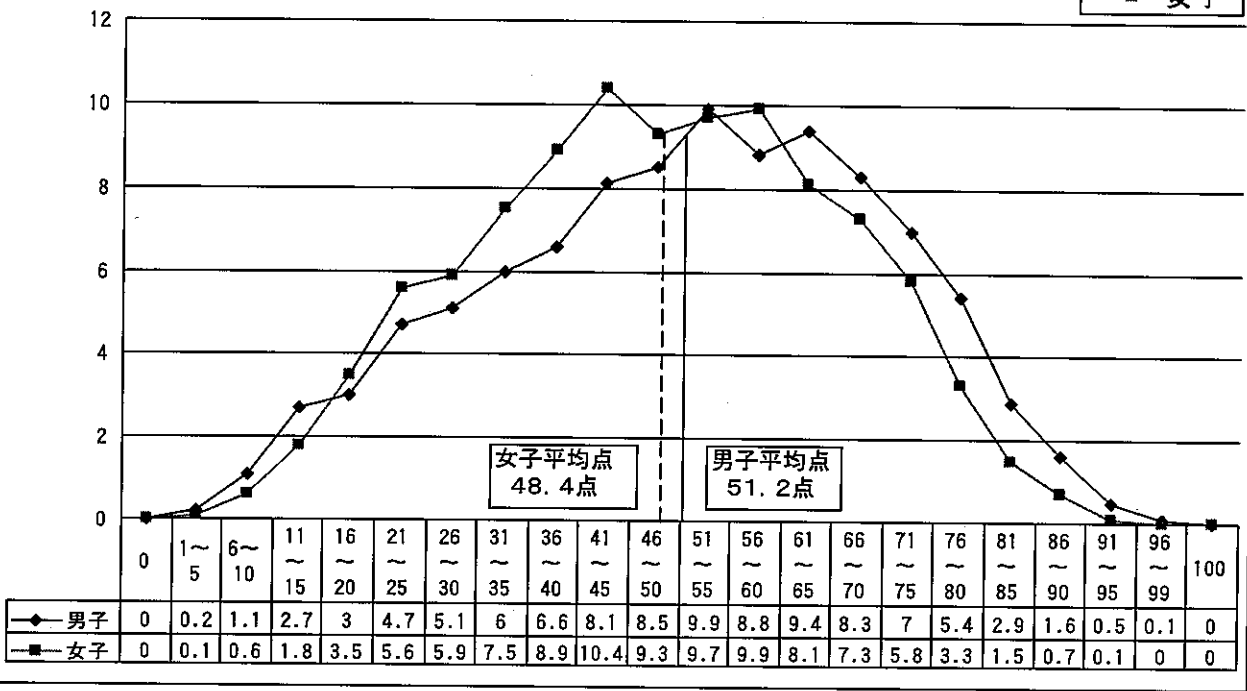
◆ 受検者



理科 (図5-2)

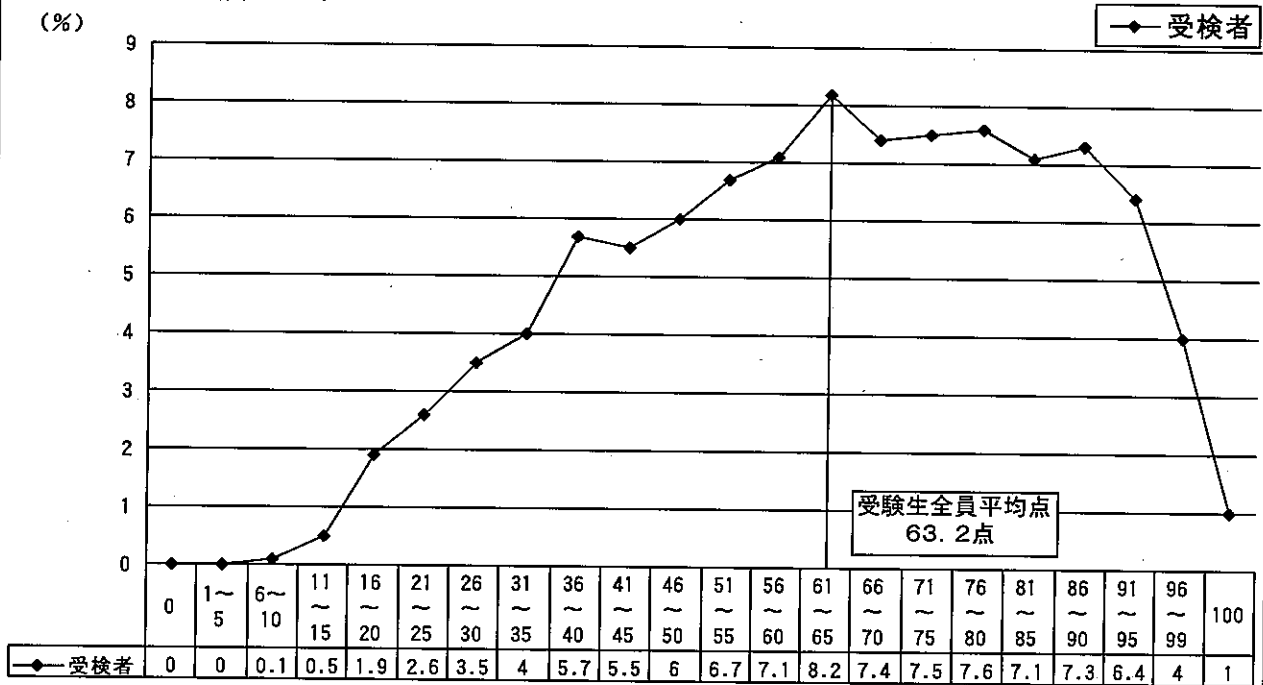
(%)

◆ 男子
■ 女子



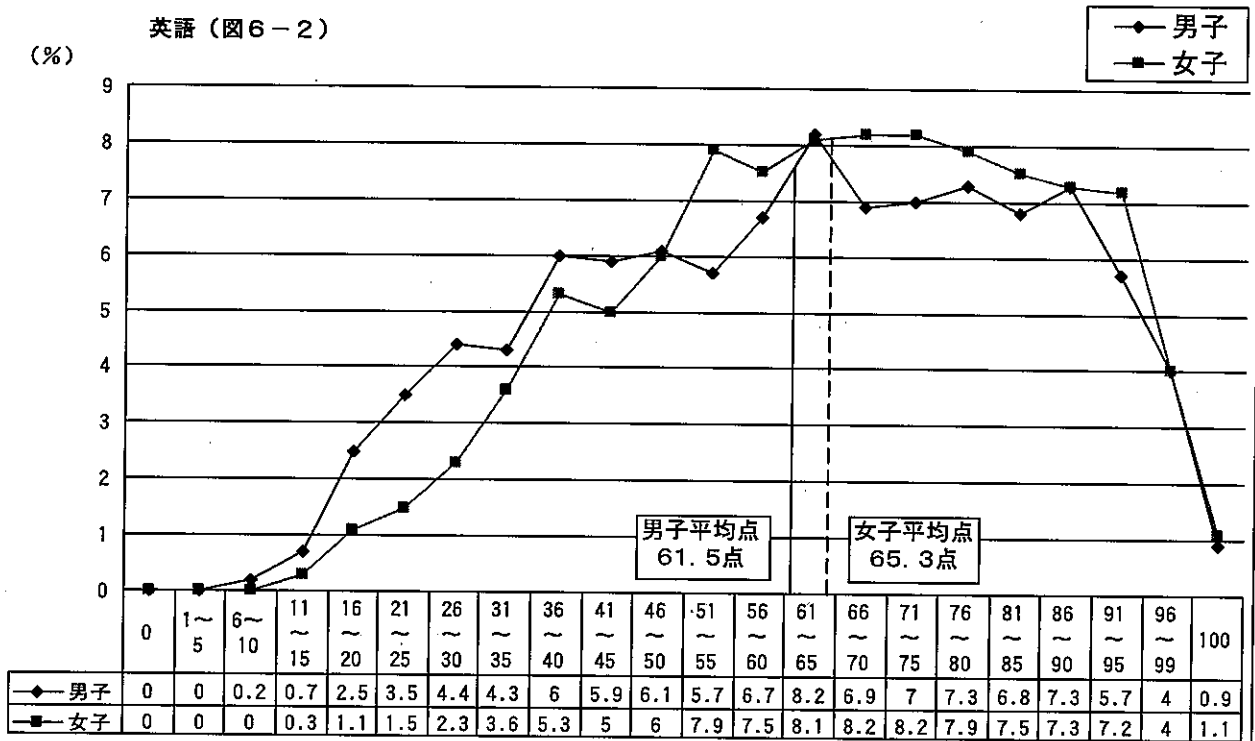
英語 (図6-1)

(%)

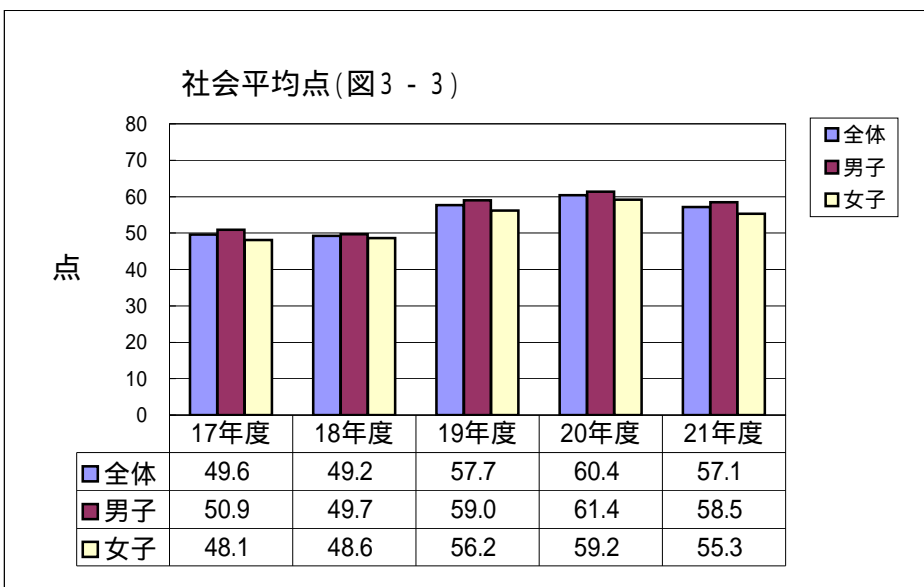
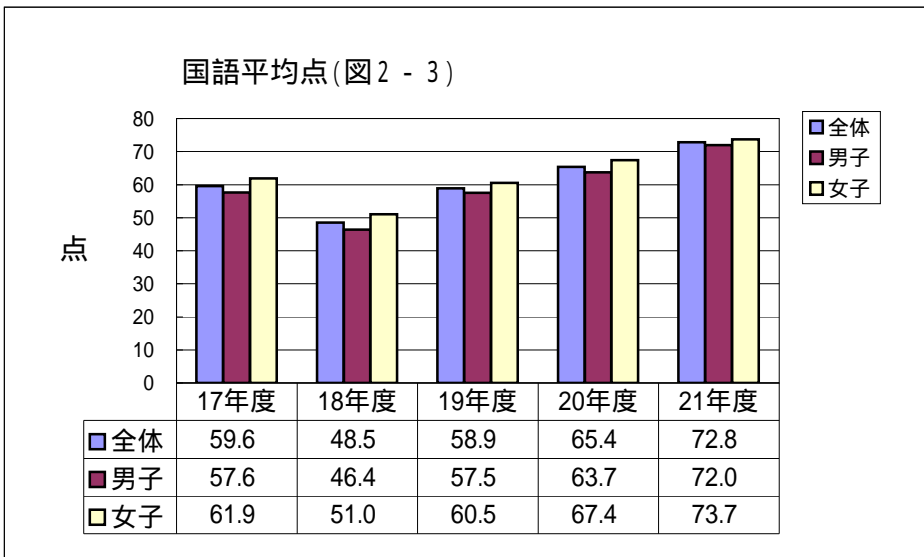
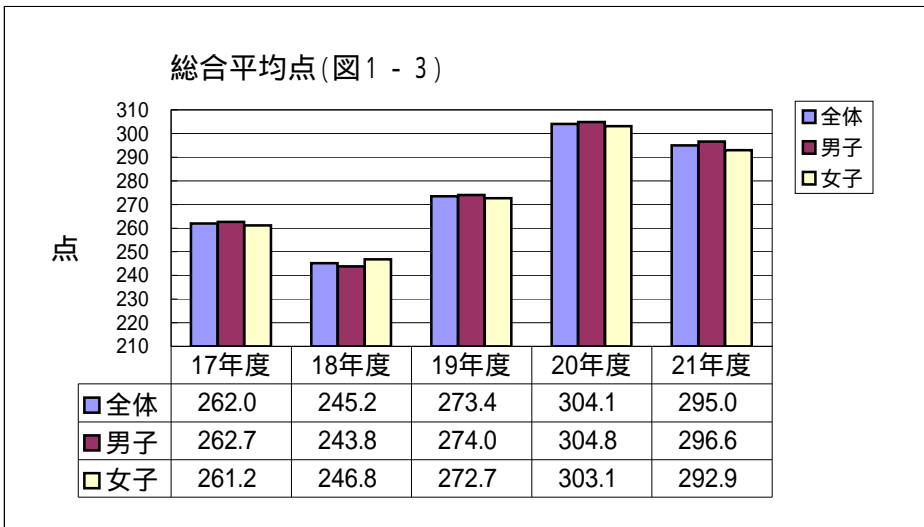


英語 (図6-2)

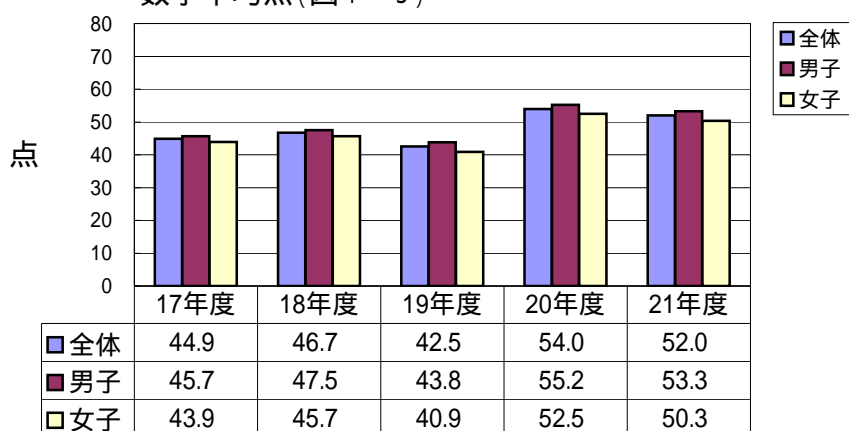
(%)



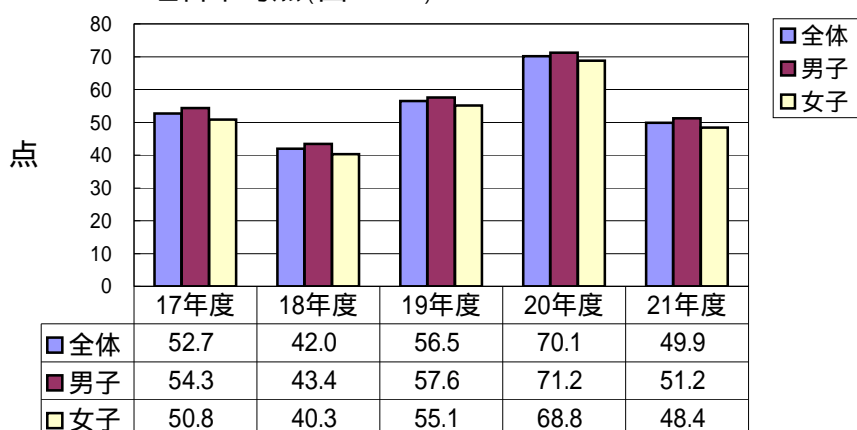
平成21年度 学力検査結果



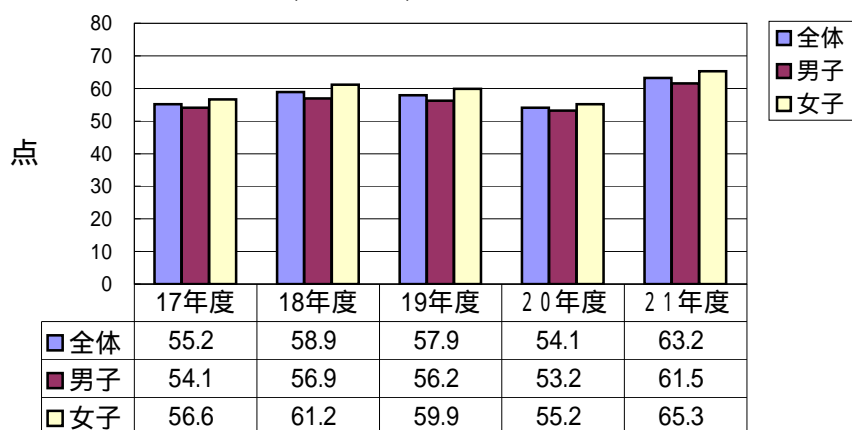
数学平均点(图4 - 3)



理科平均点(图5 - 3)



英語平均点(图6 - 3)



平成21年度 正答率調査表【国語】

問 題		正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	問 題	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)			
一	一	ア	97.7	2.1	0.2	四	一	80.1	19.9	0.0	
		イ	66.2	32.7	1.1		二	(1)	64.7	34.0	1.3
		ウ	84.4	14.1	1.5			(2)	65.4	33.7	
		エ	99.6	0.4	0.0		三	75.6	24.2	0.2	
		オ	94.7	3.0	2.3		四	90.0	9.1	0.9	
	二	ア	75.9	19.9	4.2		五	63.5	28.6	7.9	
		イ	88.9	10.9	0.2		六	53.2	34.8	12.0	
		ウ	89.4	8.5	2.1		七	得点	人数	得点	人数
		エ	94.7	2.3	3.0			0	3.3	8	13.6
		オ	79.3	10.7	10.0			1	1.5	9	13.1
	三	44.2	55.8	0.0	2			1.8	10	12.2	
	四	96.8	2.8	0.4	3			2.6	11	9.3	
	二	81.2	18.8	0.0	4			4.7	12	5.1	
	二	93.6	6.4	0.0	5			6.2	13	1.5	
三	一	27.6	70.9	1.5	6	10.4	14	0.4			
	二	80.6	19.4	0.0	7	14.1	15	0.2			
	三	66.0	33.1	0.9							
	四	60.7	32.7	6.6							
	五	92.5	7.1	0.4							
	六	83.8	15.6	0.6							
	七	74.6	25.2	0.2							
	八	84.2	15.8	0.0							

【社会】

問 題		正答数(%) (部分点%)	誤答数 (%)	無答数 (%)	問 題	正答数(%) (部分点%)	誤答数 (%)	無答数 (%)						
1	1	(1)	50.9	48.9	0.2	3	1	81.2	18.8	0.0				
		(2)	56.6	43.2	0.2		2	41.9	57.5	0.6				
		(3)	3点	46.4	49.1		1.5	3	54.7	45.3	0.0			
			2点	3.0				4	a	94.2	5.8	0.0		
			1点	0.0					b	83.1	16.9	0.0		
	(4)	3点	33.3	60.9	2.8		c	95.9	4.1	0.0				
		2点	3.0				5	(1)	70.7	29.3	0.0			
	2	(1)	3点	82.1	13.9		3.6	(2)	66.7	33.3	0.0			
			2点	0.4				6	55.3	34.2	10.5			
		(2)	3点	32.9	66.5		0.6	7	3点	71.4	17.5	6.4		
			(3)	ア					2点	62.2			2点	4.3
		1点			3.6		1点		0.4					
		イ	2点	97.3	0.6		0.2	1	(1)	3点	28.4	63.7	7.5	
			1点	1.9					2点	0.4				
(4)		77.4	22.6	0.0	(2)	50.6	48.5	0.9						
(5)	3点	76.5	22.5	0.4	2	3点	50.3	20.9	3.8					
2点	0.6	2点				23.9								
2	1	(1)	41.0	59.0		0.0	4			1点	1.1	36.5	15.0	
		(2)	62.6	37.2	0.2	3		64.7	34.4	0.9				
		(3)	3点	7.5	27.8	18.2		4	63.5	36.1	0.4			
			2点	20.9				5	3点	57.2	30.1			11.8
			1点	25.6					2点	0.9				
	(1)	ア	3点	80.8	13.2	1.1		6	3点	34.2				
			2点	4.7					2点	0.2				
			1点	0.2					1点	14.1				
	(2)	3点	56.6	38.9	3.6	3		3点	57.2					
	2点	0.9	2点					0.9						
	(3)	41.9	57.7	0.4	(1)			27.1	61.1	11.8				
	3	(2)	51.1	48.7	0.2	(2)		51.1	48.7	0.2				
		(3)	41.5	57.9	0.6	(3)		41.5	57.9	0.6				

【 数 学 】

問 題		正答数 %	部分解 答数%	誤答数 %	無答数 %	問 題		正答数 %	部分解 答数%	誤答数 %	無答数 %		
1	1	94.1		5.9	0.0	4	1	(1)	29.8	30.7	24.2	15.3	
	2	78.9		20.7	0.4			(2)	33.7		45.4	20.9	
	3	90.9		9.1	0.0		2	(1)	11.1	47.0	23.9	18.0	
	4	85.0		13.9	1.1			ア	39.4		47.6	13.0	
	5	89.3		10.0	0.7			イ	22.4		43.3	34.3	
	6	85.9		13.5	0.6			ウ	27.2		31.1	41.7	
2	1	74.8		23.0	2.2	5	1	67.8		22.0	10.2		
	2	70.7		24.5	4.8		2	51.9		37.1	11.0		
	3	80.2		16.8	3.0		3	57.2		19.6	23.2		
	4	49.1		47.4	0.0		4	20.4		40.2	39.4		
	5	59.8		38.7	1.5		1	43.5		45.9	10.6		
3	1	43.8	2.6	49.1	4.5	6	2	5.7		65.9	28.5		
	2	(1)	52.9		39.1		8.0	3	(1)	3.7		59.0	37.3
		(2)	60.5	3.4	23.7		12.4		(2)	16.6		56.0	27.4
		(3)	27.4		53.3		19.3						

【 理 科 】

問 題		正答・部分点数		誤答数 %	無答数 %	問 題		正答・部分点数		誤答数 %	無答数 %		
		正答%	部分点%					正答%	部分点%				
1	1	(1)	83.3		16.5	0.2	5	1	93.2		6.8	0.0	
		(2)	53.2	5.3	34.9	6.6		2	(1)	70.3		24.4	5.3
		(3)名称	74.4		16.7	8.9			(2)	44.7		51.9	3.4
		(3)理由	30.0	24.1	32.9	13.0		3	名称	45.9		37.9	16.2
	2	59.0		40.6	0.4	説明			26.5	7.5	48.9	17.1	
2	1	79.1		20.7	0.2	6	1	60.9		38.2	0.9		
	2	41.8	37.5	16.6	4.1		2	12.5	4.8	81.6	1.1		
	3	52.0	1.3	40.3	6.4		3	67.9		24.6	7.5		
	4	43.9	0.2	48.9	7.0		4	記号	22.9		72.6	4.5	
1	76.7		20.9	2.4	理由	6.2		0.7	79.9	13.2			
3	2	12.2	47.0	39.1	1.7	7	1	(1)	73.9		26.1	0.0	
	3	49.1		50.7	0.2			(2)	43.2		56.4	0.4	
	4	化学式	78.2		13.0		8.8	2	(1)	67.7	0.9	27.8	3.6
		成因	42.3	0.4	44.6		12.7		(2)	42.8	17.9	28.4	10.9
4	1	68.8		30.8	0.4	8	1	(1)	22.2		77.4	0.4	
	2	55.1		44.2	0.7			(2)記号	55.2		40.9	3.9	
	3	計算	26.5		62.6			10.9	(2)理由	33.5	2.6	52.4	11.5
		単位	76.5		16.7			6.8	2	(1)	29.5		70.1
	4	11.2		71.5	17.3		(2)	4.7		0.4	81.2	13.7	

【 英 語 】

問 題	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	問 題	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)		
1	1	89.5	10.5	0.0	1	a	79.3	20.7	0.0
	2	86.5	13.5	0.0		b	71.8	27.6	0.6
	3	72.6	27.4	0.0		c	76.5	20.9	2.6
	4	96.2	3.8	0.0		66.0	33.8	0.2	
2	1	82.5	17.5	0.0	2		79.1	20.5	0.4
	2	69.0	31.0	0.0			69.7	29.5	0.9
	3	65.6	34.4	0.0	3	点 数	人数(%)		
	4	64.1	35.7	0.2		4	34.6		
				2		47.4			
				0		18.0			
				2点, 0点のうち, 無答が					
3	1	92.1	7.9	0.0	ひとつの者の数		5.2		
	2	77.8	22.2	0.0	ふたつの者の数		1.7		
	3	50.0	50.0	0.0	4	50.6	48.5	0.9	
	4	76.9	23.1	0.0		A	72.4	16.5	11.1
	5	64.5	35.5	0.0	5	B	26.3	56.2	17.5
	6	58.8	41.2	0.0		C	32.9	47.7	19.4
	7	63.0	36.8	0.2		D	67.5	20.5	12.0
				点 数		人数(%)			
4	1		67.3	32.7	0.0	6	9	14.5	
			79.5	20.5	0.0		8	9.4	
			60.9	38.7	0.4		7	6.8	
			77.6	22.0	0.4		6	9.6	
							5	8.8	
	2	A	61.1	34.6	4.3		4	5.8	
		B	68.6	25.8	5.6		3	10.3	
		C	58.1	34.4	7.5		2	6.8	
	3	84.0	14.5	1.5	1		3.2		
	4	4	点 数	人数(%)			0	24.8	
			5	11.5		[理由]の英文について, 解答の正誤にかかわらず			
			4	15.1		3文以上書いた者の数	1.3		
			3	19.7		2文書いた者の数	57.5		
			2	15.8		1文書いた者の数	12.4		
			1	10.0		無答の者の数	28.8		
			0	27.9		本文中の英文を写して解答したと思われる者(内数)			
			0点のうち無答数	7.0		3文以上写した者の数	0.0		
	5	5	5	16.7		2文とも写した者の数	9.0		
			4	10.1		1文を写した者の数	12.2		
			3	11.8					
2			11.6						
1			5.6						
0			44.2						
0点のうち無答数			16.3						
6	6		75.9	17.3	6.8				
			52.8	37.8	9.4				
			64.7	28.0	7.3				
			48.9	44.9	6.2				

「英文を写した」とは本文の英文をそのまま写したと考えられるものです。